

学習と生活の基礎基本をおさえた集団づくり

宇治市立西宇治中学校

田中 正浩

はじめに

西宇治中学校ではここ数年「集団づくり」を研究テーマにして全校で取り組んでいる。中でも体育祭、文化祭での縦割りブロックをいかした取り組みは（賛否両論あるものの）生徒の自主性、自治能力を高める意味で大きな成果をあげている。

学級集団づくりの面では毎年夏季研修会で各担任の創意ある取り組みを交流しながら、「学習と生活の基礎基本をおさえた集団づくり」というテーマのもと、いくつかのサブテーマを設定し、研究を積み重ねてきた。

例えば昨年度は①生活規律、②授業規律、③行事の取り組み の三分科会を設定した。その中でクラス内の「いじめ」問題に正面から取り組み、学級通信などで生徒に訴え、憲法や児童憲章を学習させる中でクラスの人権宣言をつくり、いじめを克服していった実践（二年）や、細かい手だてでクラスの組織を構築しつつ、課題を持った生徒を中心に据えてアピール集会の取り組みを成功させた実践（三年）などが報告された。

私自身の実践としてはこれといって特別なものはないのであるが、この2年間と3カ月の実践を振り返って、「日常的にどのようにしてクラス集団をつくっていかしているのか」を報告したい。

1年 学級集団の世論作り～資料1（'91校内研レポート）参照～

ア. 班ノートの取り組み

班における世論作りといえば大げさであるが、お互いがどんなことを考えているのか、理解を深める手助けになる。特に行事の前などは目標に向かって気持ちを一つにしていくという点ではなかなか効果的である。また、担任が生徒の知られざる一面を知ることできる。長い文章を書く練習にもなるので無理にでも書かせている。テーマは特に限定しないが、クラス、生徒会、クラブでのできごとや思ったことなど身近な内容が多い。

イ. 学級通信の取り組み

生徒の生の声をできるだけ多く掲載するようにつとめた。すぐれた意見を紹介したり、クラス内の前進的な面をできるだけ目に見える形にし、クラス全員に返すと同時に、父母にも知らせることができる。時には生徒に問題を提起したり、訴えたりする場としても活用している。

2年 班長会を軸にしたクラス作り～資料2（'92校内レポート）参照～

ア. 班長会の位置づけ

班長は班の代表であると同時にクラス内の諸課題を解決していく中心としての役割を担う。したがって、個人・班からの要求に基づく取り組みや、生徒会行事に向けてのクラスの取り組みなどの原案を作成したり、分析したり、宣伝したりする。毎週木曜日が「クラスの日」という設定で、クラブがないので、班長会を定例化できる。

イ. 終学活の運営

日直班（毎日変わる）が司会をし、進める。内容は、①各班から「今日のまとめ」の発表 ②清掃点検の発表 ③日直点検の発表（逆点検） ④係からの連絡 ⑤先生から。そのほか、その時々に取り組んでいること（例えばベル着点検など）があれば入れていく。日直班で司会を回すことで特定の生徒だけが活躍するのではなく、どの生徒も発言できるムードを作り出せる。また、班員同士で一日の課題点、前進点を出し合うことで班の力を伸ばせると同時に、自分のことだけでなく、班やクラス全体のことを考えられるようになった者もいる。

3年 学級三役を核にしたクラス作り

ア. クラスの組織作り

- ① 「係」は一人一役で固定（各教科、号令、修繕、花、鍵、掲示、配布、自主学习）
- ② 「日直」は班で回す（2年時と同じ）（黒板消し、学級日記、出席調査、終学活運営）
- ③ 学級委員、議長、書記それぞれ男女1名ずつからなる「学級三役」をクラスの核に据える。

イ. 学校祭に向けてどう取り組んでいこうとしているのか

それを現在思案中である。構想通りクラスの組織はできたが、班長会との有機的つながりが弱い（班長会の定例開催ができていないため）。学校祭では縦割り班（本校では「タテ班」と呼んでいる）での活動が多くなるため、「縦」と「横」のつながりを強めていかななくてはいけないと考えている。

全校行事の中でクラスとしてのまとまりをどのようにして作り出すのか。これから実践していきつつ考えていきたい。